

研究

伊能忠敬測量日記と地図(二)

文化七年(一八一〇)三月二日〜四月二日

佐伯領内海岸部測量

高盛西郷

(佐伯市大入島石間)



富岡八幡宮 伊能忠敬像

同十二日 朝曇天 前後手六ツ(午前五時半)後

佐伯城下出立

後手 我ら・青木・永井・上田・平助

塩江村、塩江村は惣名にて別に塩江村と云はなし、大江灘
 村字長波石より初め、大舟掛、字三九郎谷、同屋敷、同東
 風隠、吹浦枝大河原、字鯛網代、地松浦字中河原にて先手
 と合測。両手共小屋掛にて中食。以上二里〇二丁四十二間
 五尺(約八、一五〇m)

先手 坂部・下河邊・梁田・箱田・長蔵

沖松浦字大崎より初め、逆測、地松浦字中河原(人家二軒)
 にて後手と合測。一里〇一丁一十九間(約四、〇七〇m)
 外に八嶋一周測。一十七丁四十五間(約一、九三六m)風
 波に就き測見切七丁斗り。

両手共一同九ツ(一二時)後に地松浦着。

止宿本陣 百姓嘉左衛門、別宿 同平蔵

この夜 晴曇測量(天体)

・吹浦庄屋治郎兵衛・沖松浦同弥八郎・幸野浦
 同幸右衛門・日野浦同利兵衛・帆波浦同宇左衛
 門・鮪浦同甚太郎・羽出浦同幸八・中越浦同茂
 助各おの出る。





・延岡地図方堤寛治郎
 ・市振村庄屋、この度、用達九郎左衛門来る。

同十三日 地松浦逗留測 朝大曇天 暁小雨
 先後手六ツ〔午前五時半〕後出立ほどなく雨降り出す。

後手 下河邊・永井・梁田・平助

沖松浦字大崎岬より初め、地松浦枝二俣字野崎まで測。二
 十四丁三十一間(約二、六七四m)

先手 青木・上田・箱田・長蔵

鮪浦字戸切より逆測。帆波浦を過ぎ日野浦字西ノ浦まで
 測。三〇丁五十三間二尺(約三、三九六m)両手測初よ
 り雨に逢い測を残して帰宿。後手は九ツ〔十二時〕前
 先手は九ツ〔十二時〕後に帰る。終日雨。

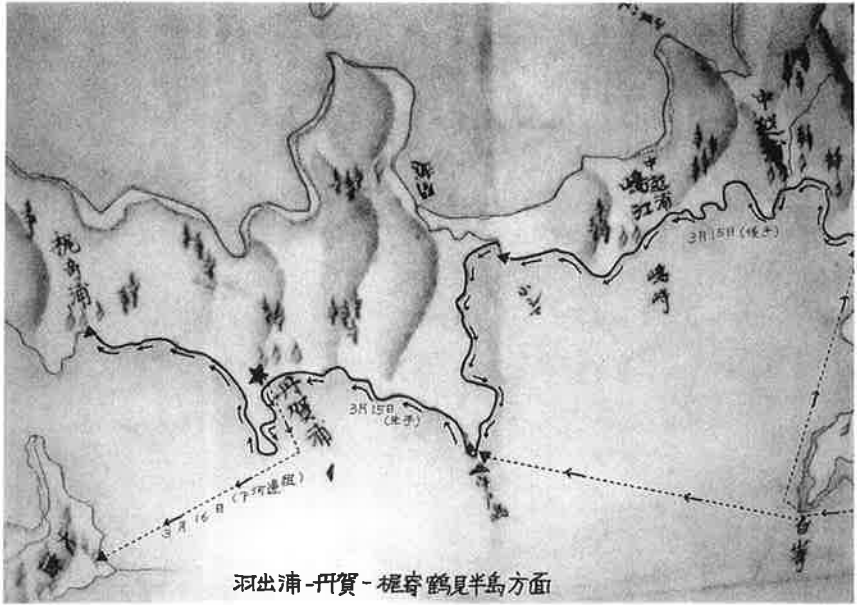
佐伯領米水津浦 大庄屋御手洗与七郎来る。

この夜小雨

同十四日 朝晴曇 同所逗留測 先手後手六ツ〔午前

五時半〕後出立

後手 下河邊・永井・黒田・長蔵



河出浦-丹賀-梶崎 鶴見半島方面

地松浦字野崎より初め、日野浦字荒網代、桑の浦、日野浦字西ノ浦まで測。一里〇七丁〇三間(四、六九六m)

先手 青木・梁田・上田・平助

鮪浦字(印)より初め、字大松人家一軒、羽手浦字八重石、字大蔵、字小蔵、字西ノ浦を測。一里〇八丁二十八間四尺(約四、八五二m) 後手九ツ半後〔午後一時〕先手八ツ〔午後二時半〕頃、に帰宿。

同十五日 朝大曇天 先後手六ツ〔午前六時〕後地松

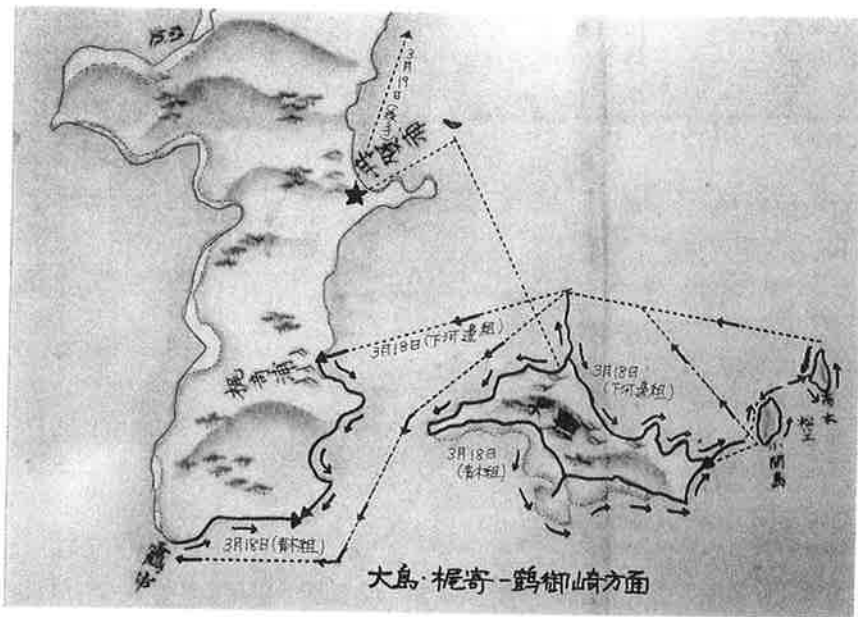
浦出立

後手 我ら・下河邊・青木・梁田・平助

羽出浦字西野浦より初め、中越浦字嶋口(嶋江)、字猿戸(此所山越横切) 字広浦字土崎(宇戸崎) まで測。一里三十二丁四十間二尺(約七、四九一m)

先手 坂部・永井・上田・黒田・長蔵

中越浦、丹賀浦境字七崎(宇戸崎)より初め、丹賀浦女郎崎、梶崎浦居浦まで測。一里一十四丁廿八間四尺五寸(約五、五〇六m) 先手九ツ半〔午後一時半〕後 後手八ツ〔午後二時半〕頃、に丹賀浦へ着。



止宿 百姓甚十郎、源太郎、着後雨。
夜もまた雨

同十六日 同所逗留測 朝大曇天 六ツ〔午前五時半〕
後

下河邊・青木・永井・梁田・上田・長蔵

大島へ渡海、大雨になり測量相成らず帰宿。

夜もまた雨、吾ら、坂部は残る。

同十七日 朝晴天 大風にて大浪 測量ならず逗留

同十八日 朝より晴天無風 同所逗留測、両手共六ツ

〔五時半〕出立。乗船、大島に渡る。

青木・永井・梁田・長蔵

大島人家前より初め、即ち番所前左山に添い、三崎岳の下にて手分と合測。一里〇九丁五十六間一尺(約五、〇一一m)又、梶崎(梶崎)米水津浦境、鶴崎(鶴御崎)より逆測。(但壇ノ鼻回)一十四丁二十一間三尺(約一、五六六m)手分と合測。片側二丁二十一間(約三三八m)



下河邊・上田・黒田・平助

大島番所前より水分、右山に添い字鳥屋河内、同田之浦同吉ヶ浦、同舟隠、同水ヶ浦を歴て宇三崎岳にて水分に合測。二十一丁十一間四尺(約二、三二二m)外に赤鼻まで地小間鼻片側。四丁五十二間一尺(約五三一m)三丁四十九間(約四一六m)また、大島属小間島一周、高手島一周。九丁一十七間二尺(約一、〇二三m)七丁五十五間(八六三m)を測る。大島周囲二里〇六丁〇〇(約八、五〇九m)それより地方梶崎浦人家前より初め鶴崎(鶴御崎)に向い順測。字下梶崎を過ぎて水分と順逆合測。一十七丁五十九間(約一、九六一m)この日晴天の所、関船の船頭より明日風波あるべし、鶴岬(鶴御崎)明日測量成り難しと申立に付、四ツ頃(午前十時)坂部、乗船大島渡、急に鶴崎(鶴御崎)を仕越に測る。此の夜雨

同十九日 昨夜より今暁まで雨 六ツ(午前五時)後止

大曇天 西北風見合四ツ半(午前十時半)

頃、丹賀浦出立

後手 我ら・下河邊・青木・上田・平助



中越浦字地下ノ鼻より山越し横切を、米水津浦内小浦まで測。二十一丁一十一間(約二、三二〇m)小浦の内檜浦にて小休。また小浦より初め、字珍崎(珍バエ)まで測。一十五丁二十七間(約一、六六七m)

先手 板部・永井・梁田・箱田・長蔵

米水津浦ノ内小浦より竹野浦、白浦(浦代浦)、同枝田鶴(田鶴音)人家十軒同字黒鼻まで測。一里二十一丁五十九間(約五、一三四m)先後手七ツ前(午後四時)米水津浦内色利浦へ着。

米水津浦大庄屋 止宿 御手洗与七郎

米水津浦は惣名にて色利浦(大庄屋)浦白浦(浦代浦)、竹野浦、小浦、官野浦五ヶ浦なり。この医師

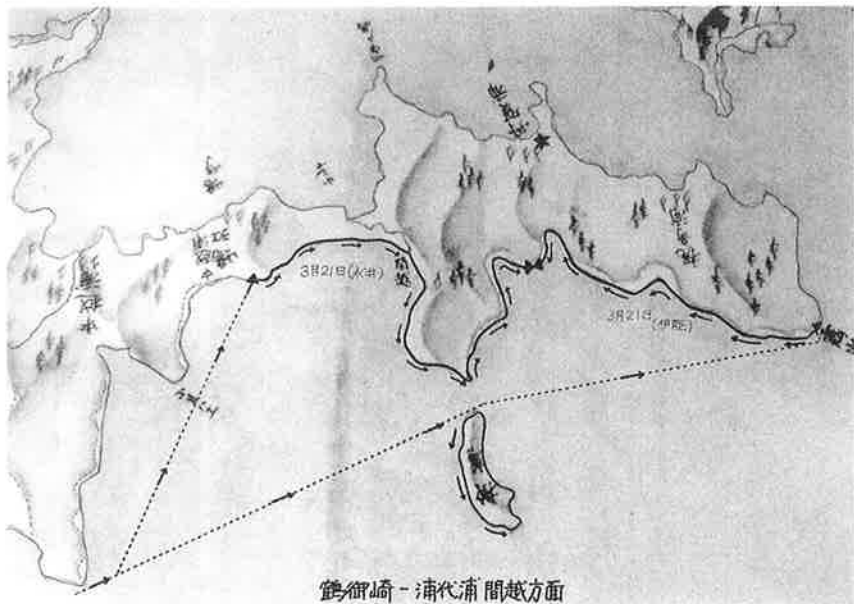
・池尾秀讓出る・入津浦庄屋富田達左衛門、並びに・蒲江浦大庄屋御手洗嘉蔵来る。

この夜晴天 大風 測量(天体)

同 廿日 朝晴天 大風 同所逗留 両手六ツ(午前

五時半)頃出立

下河邊・永井・梁田・平助



昨日の測終、字黒鼻より初め、即ち浦白浦(浦代浦)、色利浦界、それより色利浦字大内浦人家十軒、色利本浦同字関網人家四軒、宮野浦、同字間浦人家一軒、字岸ノ鼻(キシメギ崎)まで測る。即ち米水津浦、入津浦界。一里三十五丁二十四間五尺(約七、七九〇m)

青木・上田・箱田・長蔵

昨日測留、小浦字珍崎(珍バエ)より初め、鱈ヶ浦まで測。一里一十八丁一十七間一尺(約五、九二〇m)両手共、八ツ(午後二時半)頃に帰宿
この夜晴天 測量(天体)

同廿一日 朝より晴天 同所逗留測、両手共、七ツ半

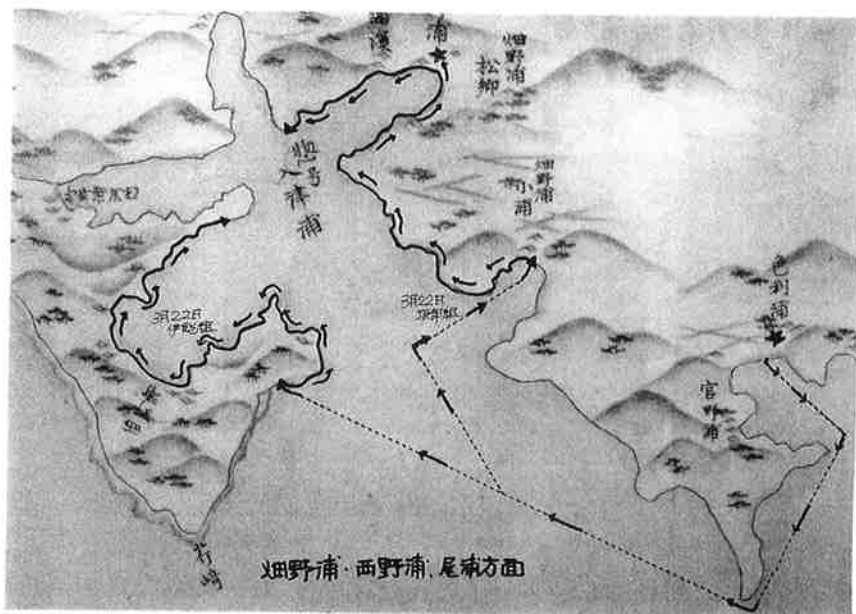
(午前四時半)後出立

我ら・下河邊・青木・箱田・長蔵

米水津浦、梶寄浦界鶴岬(鶴御崎)より初め、逆測字元ノ鼻にて手分と合測。一里二十四丁五間(約五、四六三m)外に横嶋手分にて七丁五十間三尺(約八五五m)外に難所一百五六十間(約二七二m)見切。

永井・梁田・上田・平助

浦白浦字鱈ヶ浦より初め、同字間越人家五軒、(猿)印を残し



山越横切、峠は浦白浦、中越浦界。中越浦字猿戸まで測。八丁廿四間三尺(約九一七m) 前日の残印に繋ぐ。それより引返し猿印より初め、浦白浦字元ノ鼻にて半分へ合測。一里〇〇廿一間三尺(約三、九六六m) 外に横島半周を測。一十二丁〇五間(約一、三一八m) 合二十九丁五十五間三尺(約三、二六四m) 見切四丁(約四三六m) 両手合。一周二十〇町二十九間三尺(約二、二三五m) 両手共八ツ頃(午後二時) 頃に帰宿。
この夜小晴 測量(二天体)

同廿二日 朝中晴 南風 六ツ(午前六時半) 頃両手

共米水津色利浦出立、乗船

我ら・青木・永井・梁田・長蔵

入津浦ノ内、西野浦字元竜王鼻(龍宮鼻) より初め、字洲ノ元人家五軒、同中小浦、同東、同中(即ち西ノ村とも西ノ浦とも(いう) 小庄屋居る所) 西ノ浦の小名(小字) 越ノ浦人家二軒、ピロ浦、作小屋二軒、居立浦まで測。一里廿八丁五十三間五十尺(約七、〇九三m) 中食飯小屋、さて入津浦は惣名にて畑野浦は大庄屋村、即ち本郷と云、西野浦(また村)、竹野浦河内、楠本浦、四ヶ浦なり。大西

野浦も惣名にて須ノ本（洲ノ本）、中小浦、東中、又は西ノ浦四ヶ所なり。

坂部・下河邊・上田・箱田・平助

入津浦之内、畑野浦字小浦（尾浦）人家前より初め、畑野浦（大庄屋は本郷に居るなり）過ぎて同浦字小浦浜、同字下り松鼻まで測。一里三十三丁二十四間五尺（約七、五七二m）両手共、九ツ半〔午後一時半〕頃入津浦内本郷畑野浦へ着。止宿 大庄屋富田達右衛門

この日 測量初より暮まで 曇天 夜曇

同廿三日 昨日より南大風雨 終日に至る 同夜もまた同じ

同廿四日 昨日に續て風雨 暁より別に南風、雨八ツ

半〔午後四時〕頃止、夜は晴る 風あり

・日州飢肥伊東修理大夫内・杉尾丈右衛門来る・肥後の国人吉・相良志摩守家来・愛甲勝左衛門・永井吉右衛門も来る。

【用語説明】

逗留測……朝の記事に逗留測とあるときは、早朝

前の測量。

枝……「枝」は「支」で本村に対する支村。

持ち・内……ともに所屬の意であるう。

仕越……予定以上の測量。

順測……目的の方向に向かって測量しながら進行

する。

逆測……目的の方向から逆に戻りながら測量する

横切……海岸出崎など絶壁で精密な測量が出来ない場合、まず①から向こう岸の

③まで正確に測る。また、①から

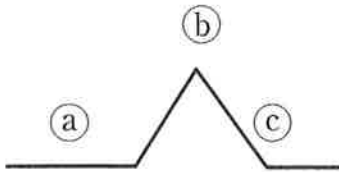
②を廻つて③まで測る。この出

崎廻りは粗くても、横切りをも

つて主とする。故に誤差が少な

い。この測量方法は伊能忠敬の

考案という。



【地図説明】

地図上では、目的地への行路の表示がないので、測量日記にそって、乗船航路を………で、順測、また、逆測ルートを ↓↓↓↓ で日付と両手組を表示した。

入り江多い海岸線と離島で頻繁に船を利用した測量隊であった。それには、各庄屋が優秀な船長を村境までつけ、測量隊一行に海上から随行、多くの協力と支援をしたものと推測される。

地図上の★印があるのが一行の宿泊地である。

【文中の文字の解釈】

・塩江村……………塩屋村（白坪村・中村）と塩屋村の分

郷である大江灘村の総称か？

・幸野浦……………桑野浦……………梶崎……………梶寄

・中越浦嶋口……………中越浦嶋江……………鶴崎……………鶴御崎

・宇七崎……………宇戸崎……………鶴岬……………鶴御崎

・白浦、浦白浦……………米水津字浦代浦

・小浦字珍崎……………小浦字珍ばえ（米水津）

・岸ノ鼻……………キシメキ崎（宮野浦）

・西野浦元竜王鼻……………龍王鼻

・畑野浦字小浦……………畑野浦字尾浦

【伊能忠敬と高橋至時と麻田剛立】

伊能忠敬（一七四五～一八一八）は、上総国武射郡小堤村の神保利左衛門の三子として山辺郡小関村誕生。佐原の豪商である伊能家の婿養子となる。

寛政七年江戸に出て、幕府天文方の高橋至時に天文暦学を学ぶ。後蝦夷地の測量を初め、日本全国の測量に携わる。

高橋至時（一七六四～一八〇四）は江戸時代後期の天文学者。通称作左衛門といい、大坂定番同心徳次郎の子として生まれる。算学を好む。天明七年、麻田剛立に天文暦算学を学ぶ。幕府の暦学御用を務める。

麻田剛立（一七三四～一七九九）は、杵築藩の私塾経営、漢学者の綾部安止の四男として杵築に生まれる。幼い時から天文学と医学に興味を持ち、大坂と杵築で活躍。藩の侍医となる。また、日食月食の観測、幕府の暦法の間違いの指摘。日食の予報を出す。日本最古の月面図も作成する。